

2019 年 8 月 8 日

申請区分 Type of Symposium	A タイプ (教員支援型) ・ B タイプ (大学院学生支援型)			
実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member(Title, Name)	教授・幅崎浩樹			
シンポジウム名 Symposium Title	第 10 回名古屋大学-清華大学-トヨタ-北海道大学合同シンポジウム			
実施期間 Date, Time	令和元年 7 月 28 日～7 月 30 日			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	名古屋大学, 清華大学, トヨタ, 北海道大学の材料科学・ナノテクノロジー分野における第 10 回の記念合同シンポジウムを北海道大学主催で函館アリーナにて開催した。清華大学から教員 6 名, 学生 4 名を含む総勢 40 名の参加者で, 招待講演 20 件, 学生ポスター発表 17 件の発表が行われた。バイオマテリアル, 高分子膜から磁性材料, 超高温セラミックス材料まで材料科学分野の幅広い研究内容について, 活発な討論が行われた。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 40 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	6	教員	中国	清華大学
	14	教員	日本	名古屋大学 6 人、北海道大学 8 人
	17	学生	日本、中国	名古屋大学、北海道大学、清華大学
シンポジウム開催による成果 Outcome	3	企業等	日本	トヨタ自動車、名古屋産業科学研究所
	以下の多くの成果を得た。 <ul style="list-style-type: none"> <li>物質化学分野を中心として本学の先進的研究成果を本ジョイントシンポジウムにて報告し, 情報発信ができた。</li> <li>物質化学分野で中国の拠点とも言える清華大学からは新たな参加者が多く, これまで交流を深めてきたメンバーとの友好関係の深化とともに, 交流の拡大が図れた。</li> <li>本学からは博士課程教育リーディングプログラム生を含む 8 名の大学院生が参加・ポスター発表を行い, 良い国際交流ができた。</li> <li>優れたポスター発表を行った学生をトヨタ自動車の支援によりポスター賞の表彰を行い, 学生の研究意欲の向上に寄与した。</li> <li>清華大学からは International Students を受け入れる新たな制度の紹介があり, 他大学の国際化の動きを知ることができた。</li> </ul>			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	<ul style="list-style-type: none"> <li>この合同シンポジウムの必要性を参加者で再認識し, 次回は清華大学の主催で 2 年後に中国にて開催することがアナウンスされた。</li> <li>総長裁量経費での支援がなくなった現在, 開催費用の確保が一番の課題である。その中で, 工学研究院からの支援は貴重であった。</li> </ul>			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	札幌にかぎらず, 道内開催を正式な支援対象としていただけるとありがたい。			

令和 2 年 1 月

申請区分 Type of Symposium	A タイプ (教員支援型) ・ <del>B タイプ (大学院学生支援型)</del>			
実施責任者 職・氏名 Responsible faculty member (Title, Name)	教授・佐藤敏文			
実施担当者 学年・氏名 (B タイプのみ) Organizer School Year, Name (B Type Only)				
シンポジウム名 Symposium Title	物質科学および物理に関する北海道大学ー国立中央大学ジョイントシンポジウム 2019			
実施期間 Date, Time	令和元年 12 月 12 日 (木) ~ 令和元年 12 月 13 日 (金)			
シンポジウムの具体的な開催内容 Describe the contents of the symposium	本シンポジウムは、台湾の国立中央大学と北大工学研究院・総合化学院・フロンティア化学教育研究センターとの交流を促進するために企画され、国立中央大学から教員 3 名と学部生・大学院生 13 名が参加した。シンポジウムでは国立中央大学の Ya-Sen Sun 教授と北大の米澤徹教授、磯野拓也助教の講演の他、国立中央大学学生 13 名と北大総合化学院・工学部・工学院学生・ポスドク 27 名、韓国 GIST 1 名 (SS 学生) によるポスター発表 (合計 41 名) を行った。			
出席者数 Number of Participants	合計/Total 61 人/Participants			
	内訳/Details			
	人数/ Number of Participants	身分/Status	国/Country	所属機関名/University Name
	3 人	教員	台湾	国立中央大学
	13 人	学部生・大学院生	台湾	国立中央大学
	1 人	大学院生	韓国	韓国 GIST
10 人	教員	日本	北海道大学	
34 人	学生・ポスドク	日本	北海道大学	
シンポジウム開催による成果 Outcome	本シンポジウムでは、Ya-Sen Sun 教授、米澤徹教授、磯野拓也助教から研究紹介をして頂き、質疑応答でも活発な意見交換が行われた。本シンポジウムにより、新たな機能性材料の合成、機能、物性に関する研究の知見を教員および学生が得ることができた。また、12 日には工学研究院長との会談、研究室見学および歓迎会を開催し、台湾と日本の学生および教員との交流が促進された。			
今後の展望と課題 Future prospects and issues	今後も学生を含めた教育・研究交流を続けることで一致した。			
その他 (本事業の要望等) Comment for the grant	特になし			

